自己評価結果 (令和5年度版)

令和6年6月21日公開

		节和 6 年 6 月 2 「日公開
評価項目	学校関係者評価 (昨年度)	自己評価
(1)教育理念・目標 ○学校の理念・目的・育成人材像 ○職業教育の特色 ○地域社会等のニーズの反映 ○学校の理念・目的・育成人材などの教職員・学生・関係業界・保護者等への周知 ○学科毎の教育目標・育成人材像が、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング	・保護者や学生とのWEB面談を継続実施したことで、いち早く学生状況の把握が出来て、保護者とも連携が深められたことはよかった。今後も継続して欲しい。 ・北九州ゆめみらいワークで、地元の中高生に向けて本をPRするよい機会になったことから、今後も継続参加して欲しい。	・学生便覧を配布し、学生・保護者に本校の 理念やルールを周知しており、保護者から 質問があった項目等について、改訂を行っ た。 ・北九州ゆめみらいワークに参加し、地元中 高生へ本校の取り組みや、何が学べる学校 なのかアピールすることができた。 ・学科に関連する業界へのインターンシップ や企業説明会を積極的に実施したことで、 企業の求めるニーズと、学生教育とのミス マッチを減らせた。
(2) 学校運営 ○運営方針に沿った事業計画 ○学校の運営組織や意思決定機能について、 規則等の明文化と機能性 ○学校運営上の各種規程の整備状況 ○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況 ○地域社会等に対するコンプライアンス体制 の整備状況 ○教育活動等に関する情報公開 ○情報システム化等による業務の効率化	・教育の質向上を図る取組み継続のため、常 勤教員のみならず非常勤講師にも、外部評価 委員による授業視察を実施して、本校の教育 方針および理念を深められたことは良いこと である。より質の高い、わかりやすい授業の 提供を望む。 ・非常勤講師に対しても、コンプライアンス 遵守は必須のため、正しい情報共有・情報提 供を続けて欲しい。	・インボイス登録事業者および電子帳簿保存 法改正により、クラウドシステムを導入し、 それまで現金で精算していた立替経費のキャ ッシュレス化を実現し、業務効率が図れた。
(3)教育活動 (目標設定等) 〇教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等 〇教育理念・育成人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正性	(目標設定等) ・近畿大学産業理工学部の電気電子工学科への編入学合格者を輩出出来たことは、喜ばしいことである。理系分野への更なる進路拡大に期待する。	(目標設定等) ・進学希望者にとっては、文系及び理系大学 への3年次編入合格が目標になっているが、 大学卒業後に社会人になることを見据えた人 物形成を視野に、学生への指導に取り組んで いる。「気づき・思考・判断・表現」する生 きる力を身に付けさせている。
(教育方法・評価等) 〇カリキュラム上にある科目の相互性及び補完性による体系化 〇キャリア教育等の視点に立ったカリキュラムやシラバスの工夫や開発 〇科毎の関連業界(団体・企業等)との連携によるカリキュラム・シラバス等の見直し 〇科毎の関連業界(団体・企業等)における実践的職業教育の体系的位置付け 〇授業評価の実施及び評価体制 ○成績評価並びに単位認定、進級及び卒業判定の基準の明確化	(教育方法・評価等) ・放送大学との連協協力で、科目履修が可能になったことは、大変良いことである。履修結果を公表することは出来るのか。 ・反転授業の取り組みについて、有効性が高いとの評価であるので、今後も積極的に取り組んでもらいたい。 授業視察の際に、取り組まれていたグループワークや、学生が発表する形式の授業など、今までの講師が一方的に教授し、学生は聞いているだけの従来型の授業とは異なり、学生自ら考えて表現したりする新しい教育手法と取り入れているのを拝見し、教育の質向上に繋がっていると高く評価する。	(教育方法・評価等) ・反転授業やグループワークを実施することにより、自分の考えを述べたり、他の学生の前で発表することで、より深く理解し知識を身に付けることが出来、さらには、編入試験や就職試験での面接にも自信を持って、臨むことが出来ている。 ・職業人としての専門性だけでなく、自ら考え、社会の変化にも柔軟に対応する力を身に付ける授業科目を追加および見直しすることによるカリキュラムマネジメントを行った。
(資格試験) ○資格・検定取得等に関する指導体制及びカリキュラム上での体系的位置付け (教職員) ○人財育成目標の達成に向けた教員の要件 ○関連業界との連携に関連した、優秀な教員 の確保体制	(資格試験) ・数年前から導入しているリメディアル教育は、有効的に使用できているのか。導入しているだけで、学生に対しフォローが出来ているのか。検定資格取得の向上が出来ているのか。今一度取り組み状況を確認すべきである。	(資格試験) ・中小企業BANTO認定試験および日商簿記2級に合格できたことから、現在のカリキュラムおよび指導体制を継続していく。・学生に提供しているeラーニングなどのリメディアル教育について、取り組み状況は各科目担当者のみの把握となり、統一できていない。
○教員に求められる、関連業界で必要とされる先端的知識・技術等の習得に向けた研修体制等 ○教職員の能力開発のための研修等	(教職員) ・継続的に教職員研修の伝達講習が実施されていることは良いことである。 ・日テレドラマロールプレイを用いた教育手	(教職員) ・実社会においてDX (デジタル・トランスフォーメーション)人材育成が推進されており、

法で、教員に研修し、学生教育へ発展させて すでに取り組んでいる企業から研修していた いき、文科省が掲げる学習指導要領にもある だいた。 「思考力・判断力・表現力」を育成し、生き ・令和6年4月から障害者差別解消法の改正 る力を身に付けさせて欲しい。 により合理的配慮が義務化されることへの周 ・大学との連携により大学側が求める学生像 知徹底のため、研修を受講した教員だけでな と、送り出す専門学校側との乖離がないよう、 く、受講していない教職員への伝達講習を次 継続的に連携を図っていくよう今後も期待す 年度(令和6年度)実施する。 ・学生の企業へのインターンシップだけでは なく、教員の他業種へ在籍出向させていただ いたのは、教育機関としても、良い経験とな ったことと思われる。受け入れ頂いたリズム 食品株式会社様に感謝申し上げる。 (4) 学修成果 ・学生インターンシップ受け入れ企業が増加 •大学3年次編入合格率93.5%、就職決 〇就職率の向上体制 したことは、喜ばしいことである。インター 定率100%を達成できた。 ンシップがきっかけで就職内定に結び付いた ・進路変更や病気療養などの理由により、1 ○資格取得率の向上体制 学生もいることから、学生にとっても企業に 8名が退学者した(コンピュータ会計科は4 とっても有意義である。 名)。 ・退学者が12名いるのは、残念であるが、 ・留学生指導、管理を強化したことで、入国 〇退学率の低減対策 引き続き低減していくよう指導を行って欲し 管理局より適正校の認定を受けることが出来 い。また、来年度(令和5年度)から導入の 〇卒業生及び在校生の社会的な活躍等の把握 スクールカウンセラーに期待している。 ・在校生に向けて、大学3年次編入した本校 ・留学生指導について、制度変更に伴い入国 卒業生による編入合格するまでの学習取組み ○卒業生のその後のキャリア形成の把握と教 方法や成果報告会および、就職した卒業生に 管理局から非適正校となったことは致し方な 育活動への改善活用 いが、留学生管理を徹底し、次年度は適正校 よる経験談発表会を実施したことで、在校生 になるよう努めて欲しい。コロナ禍が明け、 の学習意欲の向上が図れただけでなく、卒業 生に対しても卒業後のキャリアを考える良い 徐々に留学生数が増えると見込まれるため、 受け入れ態勢および卒業後の進路についてよ 機会になった。 り一層支援して欲しい。

評価項目	学校関係者評価 (昨年度)	自己評価
(5) 学生支援 ○進路・就職に関する支援体制 ○学生相談に関する支援体制 ○学生に対する経済的な支援体制 ○学生の健康管理に対する体制 ○課外活動に対する支援体制 ○学生の生活環境への支援体制 ○社会人のニーズを踏まえた教育環境整備について ○高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組 ○関連業界との連携による卒業後の再教育プログラム体制	・放送大学と協力締結できたことは大変良いことである。 協定締結している近畿大学との大学見学などの連携を密にしたことで、3年次編入学合格者を多数出すことが出来たことは素晴らいことである。・外部カウンセラーによるスクールカウンセリングについて、本格導入実施後に効果や継続の有無も含め検討すべきである。・コロナ禍による食や生理の貧困の支援を実施したことは、素晴らしい。今後も学校の負担にならない範囲で、支援継続の検討をして欲しい。・必要な支援に対して自ら手を挙げることができることは、「真の自立した人」だと思うので、今後も、「自立した人」を育てて欲しい。	・学生の希望進路実現への支援として、大学編入試験対策講座の実施および面接指導・志望動機づけの相談体制の充実を図った。 ・大学編入を志望する学生向けに、北九州市立大学、九州工業大学および近畿大学への大学見学を受け入れていただくことができた。学生の大学編入への意欲向上につながった。・経済的支援として、学費納入の猶予および分割納入を実施した。・コロナ禍の影響のため、生理の貧困の支援を前年度より継続して実施した。・外部カウンセラーによるスクールカウンセリングを年間通じて実施したが、カウンセラーとの折り合いがつかず、次年度の実施は見送ることとした。
(6)教育環境 ○施設・設備の整備体制 ○実習施設・インターンシップ・海外研修等 の教育体制の整備状況 ○防災等に対する整備状況	・インターンシップ受け入れ企業へ学生が採用されたのは、大変素晴らしい。企業および学生のニーズのミスマッチが防げるため、今後も受け入れ企業の増加に努めて欲しい。	・インドネシアの大学3校と連携協力合意を 締結したことにより、本校専門学校からイン ドネシアの大学へ編入する2+2学位取得プ ログラムの研究が来年度以降行える。
(7) 学生の受入れ募集 ○高等学校等への情報提供等の体制 ○学生募集活動の適正性 ○学生募集活動における、資格取得・就職状 況等の情報の正確性 ○校納金の適正性	・Web出願システムを利用した出願が増加傾向にあることから、出願方法のパンフレットを作成しわかりやすくして改善できたことは良い。出願方法別に集計し、推移を確認するとよい。・物価高騰のため、今後、適正な校納金の見直しをすべきである。	・Web出願システムの利用者が、全出願者の56%と半数を超え、前年度より増加した。・物価高騰による教育経費の増加のため、校納金の3%増額改定を行った。

		評価項目	学校関係者評価(昨年度) 自己評价		自己評価				
-	〇予算・ 〇財務監 〇収支状	経営基盤体制 収支計画の適正性	・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書 により確認。及び、公開情報も確認。		・理事会による決議。 ・予算書に則した収支実 ・理事会監事による監査・収支状況の公開は学校 後、HPにて公開。	実施。			
	令和5年度			位:千円					
		区分	金額	割合			区分	金額	割合
		自己収入(A)	146, 659	84.0%		教育码	研究経費支出(D)	32, 354	18.0%

	区分	金額	割合
	自己収入(A)	146, 659	84.0%
	授業料等収入(A-1)	140, 220	80.3%
収入	その他収入(A-2)	6, 439	3.7%
入	事業収入(B)	10, 073	5.8%
	補助金等収入(C)	17, 903	10.2%
	借入金(D)	0	0%
	合計	174, 636	100%
	·	·	

	区分	金額	割合
	教育研究経費支出(D)	32, 354	18.0%
	(※内奨学費)	19, 009	(10.5%)
支出	人件費支出(E)	87, 533	48.3%
出	一般管理費支出(F)	39, 834	22.0%
	施設·設備関係支出(G)	6, 155	3.4%
	その他支出(H)	14, 999	8.3%
	合計	180,877	100%

※奨学費の過去5か年実績(単位:千円)令和元年度:20,140 令和2年度:22,349 令和3年度:32,436 令和4年度:25.479 令和5年度:19,009

(9) 法令等の遵守 Oコンプライアンス (法令等) の適正性 O個人情報の保護対策 O自己評価の実施と改善計画 O自己評価結果の公開	・法律改正に伴う関連規則等の改正は今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報保護の遵守を徹底して欲しい。 ・コロナ禍で数年実施できていなかった「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学を実施が出来、学生が政治に関心を持つ良い機会になったのではないか。	・学生によるコンプライアンスやハラスメントに 抵触する事案が発生した。罪の意識がなく安易に SNS等に発信できてしまうため、教職員のみなら ず学生にもコンプライアンス遵守の指導を徹底 していく必要がある。 ・選挙権に関する学生への講習会として、市議会 見学を実施し、18歳成人として責任ある行動・ 法令遵守することの大切さの意識づけができた。
	- - ・令和6年6月21日公開	
(10) 社会貢献・地域貢献 〇学校を活用した社会貢献・地域貢献について 〇学生のボランティア活動等 〇地域に対する公開講座や職業訓練等の実施状況	・公共職業訓練を実施出来たことは、良いことである。今後も継続的に実施できる体制を構築して欲しい。	・地域貢献として、大規模火災で被災した地元映画館の復興イベントや、市内のシェアサイクルサービスの自転車移動などの学生ボランティアを行った。 ・公共職業訓練において事務系1コースを実施できた。
(11) 国際交流 ○留学生の受け入れ・派遣への戦略 ○留学生の受け入れ・派遣の実施状況 ○留学生(受け入れ・派遣)の学習体制 及び評価・生活指導についての学内指導 体制 ○学習成果の国内外での評価体制	・コロナ禍で留学生数が激減しているのは残念であるが、留学生一人ひとりに手厚いフォローが出来る良い機会である。 ・卒業した留学生5名全員が、進学や国内就職を実現できたことは、素晴らしい。	・留学生の卒業生2名とも日本国内で就職することができた。 ・インドネシアの大学3校とのMOU締結により、 単位互換の可能性や学位取得の可能性ができた。

自己評価及び学校関係者評価結果 (令和4年度版)

令和6年6月21日公開

			节和10年10月21日公開
評価項目	学校関係者評価(昨年度)	自己評価	学校関係者評価
(1)教育理念・目標 ○学校の理念・目的・育成人材像 ○職業教育の特色 ○地域社会等のニーズの反映 ○学校の理念・目的・育成人材などの教職員・学生・関係業界・保護者等への周知 ○学科毎の教育目標・育成人材像が、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング	・保護者とも対面やWEB面談を昨年 同様実施していることで、本校の教 育理念やどのような人物・人材とな る教育をしているのか、保護者にていただける機会が持てたことは良いので、継続してからず、 とは良いので、継続してがらず、学 生の希望進路の業界のニーズを踏 まえた教育を提供することに、変か りつつある時代に見合った改革・変 革を継続する必要がある。	・遠方の保護者面談や出席率低下傾向の学生との面談でWEB面談を継続して実施したことにより、学生状況をいち早く把握することが可能となった。本校教員と学生、保護者との連携を深めることに繋がった。・北九州ゆめみらいワーク2022では、地元北九州の中高生に向けて本校の学生が作成したPythonを用いたシューティングゲームを紹介した。情報分野での学生の成果物を用いることで、本校での特色ある学びを紹介する機会となった。今後も継続を行いたい。	・保護者や学生とのWEB面談を継続実施したことで、いち早く学生状況の把握が出来て、保護者とも連携が深められたことはよかった。今後も継続して欲しい。・北九州ゆめみらいワークで、地元の中高生に向けて本をPRするよい機会になったことから、今後も継続参加して欲しい。
(2)学校運営 ○運営方針に沿った事業計画 ○学校の運営組織や意思決定機能について、規則等の明文化と機能性 ○学校運営上の各種規程の整備状況 ○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況 ○地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備状況 ○教育活動等に関する情報公開 ○情報システム化等による業務の効率化	・コロナ禍で、学校運営の変革が求められ、より一層コンプライアンス連守の徹底が必要である。引き続き研修等で研鑚してもらいたい。・教育の質向上を図る取組みを継続して欲しい。研修を受けただけでなく、得た知識を活かして実践してもらいたい。伝達講習をすることで、研修を受けた教職員の確実な知識の定着が図れる。・多様性の時代を踏まえLGBTQ+を正しく理解し、コンプライアンス連守に留意して欲しい。	・教育課程編成委員(外部評価委員)による授業視察を継続することで、常勤だけではなく、非常勤講師にも「教育の質向上」を意識付けることに繋がった。学生からの率直な評価を実施できたことで、よりの質の高いが可能と地ではできた。また、非常勤講師のでは一本なのをできた。また、非常勤講師に本校の表により、非常勤講師に本校の表により、非常勤講師になり、非常勤講師になり、非常勤講師に対して、年度初かたと後期開講前にコンプライアンス連守の教育方針における更なる理解を深め、情報共有を行うことに繋がっている。	・教育の質向上を図る取組み継続のため、常勤教員のみならず非常勤講師にも、外部評価委員による授業視察を実施して、本校の教育方針および理念を深められたことは良いことである。より質の高い、わかりやすい授業の提供を望む。 ・非常勤講師に対しても、コンプライアンス遵守は必須のため、正しい情報共有・情報提供を続けて欲しい。
(3)教育活動 (目標設定等) 〇教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等 〇教育理念・育成人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正性	(目標設定等) ・教育のさらなる質向上を図るために、シラバスの改定を行ったことは大変良い。 ・コロナ禍でオンライン授業と対面授業のハイブリッドを実施し、選択型授業を実施できていることは評価する。	(目標設定等) ・近畿大学産業理工学部電気電子工学 科の編入学合格者を輩出した。学生の 進路の拡大に繋がった。 (教育方法・評価等)	(目標設定等) ・近畿大学産業理工学部の電気電子工学科への編入学合格者を輩出出来たことは、喜ばしいことである。理系分野への更なる進路拡大に期待する。 (教育方法・評価等)
(教育方法・評価等) 〇カリキュラム上にある科目の相互性及び補完性による体系化 〇キャリア教育等の視点に立ったカリキュラムやシラバスの工夫や開発 〇科毎の関連業界(団体・企業等)との連携によるカリキュラム・シラバス等の見直し 〇科毎の関連業界(団体・企業等)における実践的職業教育の体系的位置付け ○授業評価の実施及び評価体制 ○成績評価並びに単位認定、進級及び卒業判定の基準の明確化 (資格試験) ○資格・検定取得等に関する指導体制及	(教育方法・評価等) ・昨年同様、中国青島大学と提携しているのに、コロナ禍で学生の派できないことは、誠に残念のでがしい。 ・期末試験未受験者への対応を厳しくすることは良いが、学生の実行して欲しい。コロナのため登校られい。コロナのため登校られい場合は、オンラインを受けら用して数しい場合は、オンラインり、追試を設定したり、追試を設定したり、後も努めて欲しい。	・放送大学との存储をはいれる。 を行い、本校内で履修が難しいれる。 ・反対ので能となった。 ・反対のでででは、大学とのででは、大学とのででは、大学とのででは、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	・放送大学との連協協力で、科目履修が可能になったことは、大変良いとである。履修結果を公表することは出来るのか。 ・反転授業の取り組みについて、有効性が高いとの評価であるので、今後も積極的に取り組んでもらいたい。 授業視察の際に、取り組まれていたグループワークや、学生が発表する形式の授業など、今までの講師が一の従来型の授業ならは聞いているだけの考えて表現したりする新しい教育手法取り入れているのを拝見し、教育の上に繋がっていると高く評価する。
びカリキュラム上での体系的位置付け (教職員) 〇人財育成目標の達成に向けた教員の要件 〇関連業界との連携に関連した、優秀な教員の確保体制 〇教員に求められる、関連業界で必要とされる先端的知識・技術等の習得に向けた研修体制等	(資格試験) ・反転授業やeラーニング学習、リメディアル教育は数年前から実施しているが、検定試験や資格取得につながっているのか。学生の自主性に任せているだけで、教員や担当がきちんとフォローできているのか。ログイン状況や取り組み状況も定期的にチェックすべきである。	(資格試験) ・リメディアル教育を導入しているが、学生の学力向上の一助としての運営ができていないと判断される。今後、担当者の変更等を行い、リメディアル教育の有効的な使用と学力向上に努めることが必要である。	(資格試験) ・数年前から導入しているリメディアル教育は、有効的に使用できているのか。導入しているだけで、学生に対しフォローが出来ているのか。検定資格取得の向上が出来ているのか。今一度取り組み状況を確認すべきである。

(教職員)

- ・昨年度、学校関係者評価委員会より提案のあった、研修の伝達講習の 機会が増えたことは喜ばしいこと である。
- ・令和3年度より導入予定であった評価制度であるが、自己評価・上長評価の統一が図れておらず、更なる見直しが必要である。次年度から本格違入を期待する。
- ・学生の成績については、進学や就職の進路に大きく関わってくるため、公平公正に評価すべきである。 期末試験時のルールの統一化、明文化を徹底してもらいたい。
- ・授業視察や巡回の頻度が増えているため、今後も継続して欲しい。 ・組織的に3部署での役割分担のすみ分けをしており、校務分掌に従い業務を遂行してほしいが、教職員一丸で一つのチームでもあるので、各部署連携し、よりよい教育の提供、業務の効率化を組織全体で考えて欲しい。
- 「思考」・「判断」・「表現」を学生の手本となるよう、教職員も念頭に置いて教育の質向上に努めてもらいたい。

(教職員)

- ・定期的に実施される教職員研修において、継続的な伝達講習を実施している。
- ・教員の質の向上のため、定期的な教職員研修を実施している。その一つが日テレドラマロールプレイを用いた教育手法である。この教育手法を用いて、教員自身の授業形式を見直し、学生指導に活かしたい。この教育手法は、思考力・判断力・表現力を育成する手法であり、教員が体験する中で学生教育への落とし込みを期待したい。
- ・評価制度では、部署間での評点の付け方を統一するため、上長評価で部署間を超えた確認を行っている。評価の統一性が出始め一定の成果が出ている。
- ・定期的な大学訪問を実施することで、大学が求める学生像について教員と学生に周知を行っている。また、教員の質の向上にも繋がり、教員の指導も同時に必要に応じて実施している。
- ・専門性の高い実務経験のある教員の 採用を実施したことにより、学生の学 カ向上と興味関心を引き出すことに繋 がる学生指導が期待されている。
- ・リズム食品株式会社様にご協力いただき、夏季期間の3週間に教員を在籍出向させていただいた。飲食業での店舗においては、教員とは全く異なる業界の中で、新たな発見やものの見方を得ることになった。今後も教員のキャリアにより必要に応じて教員の在籍出向を行う必要がある。

(教職員)

- ・継続的に教職員研修の伝達講習が実施されていることは良いことである。
- ・日テレドラマロールプレイを用いた 教育手法で、教員に研修し、学生教育へ 発展させていき、文科省が掲げる学習 指導要領にもある「思考力・判断力・表 現力」を育成し、生きる力を身に付けさ せて欲しい。
- ・大学との連携により大学側が求める 学生像と、送り出す専門学校側との乖 離がないよう、継続的に連携を図って いくよう今後も期待する。
- ・学生の企業へのインターンシップだけではなく、教員の他業種へ在籍出向させていただいたのは、教育機関としても、良い経験となったことと思われる。受け入れ頂いたリズム食品株式会社様に感謝申し上げる。

(4) 学修成果

〇就職率の向上体制

○資格取得率の向上体制

〇退学率の低減対策

○卒業生及び在校生の社会的な活躍等 の把握

○卒業生のその後のキャリア形成の把 握と教育活動への改善活用

- ・多数の企業にインターンシップ の受け入れをしていただけたこと は、コロナ禍であること踏まえて も、喜ばしいことである。
- ・Web面接を採用している企業・大学が多い中、学生が前向きに対応できて内定や合格を勝ち取っていることは、指導の賜物であると考える。
- ・コロナ禍で経済的や進路変更のため退学者が出たことは致し方ないが、学生の人生の大きな分岐点であるため、後悔のないよう指導して欲しい。

・コロナ禍で入国している留学生

が少ない中、「非適正校」になったことは遺憾であるが、国内での就職に、本校でビザ申請が可能になり、実際就職内定をもらえたことは、素晴らしいことである。今後も就職希望者の内定者数を増やしてほしい。・令和4年度の100周年事業については、コロナ禍ではあるが学校のアピールになるような事業となることを期待する

- ・学生のインターンシップ参加について、22社の企業にてインターンシップを実施した。前年度は18社だったので、受け入れ企業数が増加した。受け入れて頂いた企業に感謝している。
- ・就職の面接試験、編入試験ともにWebを用いた試験を採用されている会社・大学が半数程度続いている。遠方での試験では移動・宿泊に費用が掛かるが、それを気にせずに受けられると学生は前向きに捉えている。
- ・学内企業説明会、合同企業説明会は オンラインで実施されるものが増加 した。
- ・退学者は全体で12名(うちコンピュータ会計科5名)であった。健康上・精神上の問題が理由のほとんどを占めており、コロナ禍が続くことも要因として挙げられる。
- ・留学生に関して、卒業・除籍・退学 後の学生を勘案する制度変更に伴い、 入国管理局から「非適正校」となった。 この機会に学習カリキュラムの見直 し及び管理の徹底を行った。
- ・留学生の就職に関しては、就職希望者5名中4名が就職内定をもらえた。

- ・学生インターンシップ受け入れ企業が増加したことは、喜ばしいことである。インターンシップがきっかけで就職内定に結び付いた学生もいることから、学生にとっても企業にとっても有意義である。
- ・退学者が12名いるのは、残念であるが、引き続き低減していくよう指導を行って欲しい。また、来年度(令和5年度)から導入のスクールカウンセラーに期待している。
- ・留学生指導について、制度変更に伴い 入国管理局から非適正校となったこと は致し方ないが、留学生管理を徹底し、 次年度は適正校になるよう努めて欲しい。コロナ禍が明け、徐々に留学生数が 増えると見込まれるため、受け入れ態 勢および卒業後の進路についてより一層支援して欲しい。

評価項目	学校関係者評価(昨年度)	自己評価	学校関係者評価
(5) 学生支援 ○進路・就職に関する支援体制 ○学生相談に関する支援体制 ○学生に対する経済的な支援体制 ○学生の健康管理に対する体制 ○課外活動に対する支援体制 ○学生の生活環境への支援体制 ○社会人のニーズを踏まえた教育環境 整備について ○高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組 ○関連業界との連携による卒業後の再教育プログラム体制	・大学と協定を締結し、編入学できたことは喜ばしいにくよう取り組んでもらいたい。・新型コロナウイルス対策としている清浄機を各対菌でもたに設定を加入とになるとにいるという後もので、ないので、ないので、ないので、ないので、ないので、ないので、ないので、ない	・放送大学の大学を表示のというでは感じされています。 ・放送大学の拡充にで、は一次では一次では、一次では一次では、一次では一次では、一次では一次では、一次では、	・放送大学と協力締結できたことは大変良いことである。 協定締結している近畿大学との大学見学などの表別といった。 学などの連携者を多多としてとから、の一ルである。 ・外部では表別である。・外のでは表別である。・外のでは表別である。・外のでは、本合のは、本合のは、であり、では、から、のでは、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが
(6)教育環境 ○施設・設備の整備体制 ○実習施設・インターンシップ・海外研修等の教育体制の整備状況 ○防災等に対する整備状況	・インターンシップで受け入れていただいた企業へ学生が就職できたことは、大変素晴らしいことである。仕事内容や職場の雰囲気を事前にわかり、就職ミスマッチが防げることは有効的である。 ・実習施設およびインターンシップ等の整備は十分に行われている。	・インターンシップの実施を行い、企業側からのニーズ、学生のキャリア構築のマッチングを行い、編入希望者・就職希望者を問わずインターンシップの情報開示について努めた。・3名の学生がインターンシップの受入企業への採用に至った。・実習設備に関してはコロナ禍の中、引き続き衛生上の管理の徹底を遵守した。	・インターンシップ受け入れ企業へ学生が採用されたのは、大変素晴らしい。 企業および学生のニーズのミスマッチが防げるため、今後も受け入れ企業の 増加に努めて欲しい。
(7) 学生の受入れ募集 ○高等学校等への情報提供等の体制 ○学生募集活動の適正性 ○学生募集活動における、資格取得・就職状況等の情報の正確性 ○校納金の適正性	・HPによる情報開示を見直したことでアクセス数が増加していることは良いことである。オンラインオープンキャンパスが今後主流になる可能性を考慮し、さらなる充実、参加者および入学者の増加を期待する。・TAOを使用したWeb出願システムでの出願の増加が顕著であることから、さらにペーパーレスが加速すると考えられる。本校に入学希望する高校生にわかりやすい情報提供を行って欲しい。・個人情報保護法を遵守した上での、学生の資格や進路状況の開示は徹底されている。	・TAOを使用したWeb出願システムでの出願について、全出願数の半分を占めたことから、前年度より増加している。Web出願方法のパンフレットを作成したことで、問い合わせ時に、パンフレットを見ながら説明でき、視覚的にわかりやすくなった。今後ますますWeb出願が増加すると想定し、より一層出願しやすいように周知を行う。・物価高騰を鑑み、校納金の適正を次年度以降見直す必要がある。	・Web出願システムを利用した出願が増加傾向にあることから、出願方法のパンフレットを作成しわかりやすくして改善できたことは良い。出願方法別に集計し、推移を確認するとよい。・物価高騰のため、今後、適正な校納金の見直しをすべきである。

評価項目	学校関係者評価 (昨年度)	自己評価	学校関係者評価
(8)財務 ○学校の経営基盤体制 ○予算・収支計画の適正性 ○財務監査 ○収支状況の公開体制	 ・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書により確認。及び、公開情報も確認。 	・理事会による決議。 ・予算書に則した収支実行(経理規程による)。 ・理事会監事による監査実施。 ・収支状況の公開は学校関係者評価 委員会の承認後、HPにて公開。	 ・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書により確認。及び、公開情報も確認。

〇収支状況(令和4年度分)

	区分	金額	割合
	自己収入(A)	166,917	83.7%
	授業料等収入(A-1)	160,140	80.3%
収	その他収入(A-2)	6,777	3.4%
入	事業収入(B)	9,858	4.9%
	補助金等収入(C)	22,625	11.4%
	借入金(D)	0	4.0%
	合計	199,400	100%

		• •	2.111
	区分	金額	割合
	教育研究経費支出(D)	51,949	24.5%
	(※内奨学費)	25,479	(12.0%)
支	人件費支出(E)	96,182	45.5%
出	一般管理費支出(F)	45,785	21.6%
	施設·設備関係支出(G)	2,553	1.2%
	その他支出(H)	15,160	7.2%
	合計	211,629	100%

※奨学費の過去5か年実績(単位:千円)平成30年度:19,470 令和元年度:20,140 令和2年度:22,349 令和3年度:32,436 令和4年度:25,479

(9)法令等の遵守 Oコンプライアンス(法令等)の適正性 O個人情報の保護対策 O自己評価の実施と改善計画 O自己評価結果の公開	・法律改正に伴う関連規則等の改正 は今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報 保護の遵守を徹底して欲しい。 ・「選挙権に関する学生への講習会」 で市議会見学が中止になったのは残 念である。感染状況を踏まえ今後、実 施可能に向けた検討をして欲しい。	・著作権法・個人情報保護法について 研修を行い、法令遵守している。 ・「選挙権に関する学生への講習会」 で市議会見学を実施することが出来 た。 ・自己評価を基に学校関係者評価委 員会よりいただいた意見を踏まえた うえで改善計画を策定し、HPに情報 公開済み。	・法律改正に伴う関連規則等の改正は 今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報保 護の遵守を徹底して欲しい。 ・コロナ禍で数年実施できていなかっ た「選挙権に関する学生への講習会」で 市議会見学を実施が出来、学生が政治 に関心を持つ良い機会になったのでは ないか。
	・令和5年6月23日公開	・自己評価結果の公開については、令 和5年6月23日公開。	・令和6年6月21日公開
(10) 社会貢献・地域貢献 〇学校を活用した社会貢献・地域貢献に ついて 〇学生のボランティア活動等 〇地域に対する公開講座や職業訓練等 の実施状況	・コロナ禍であるが、清掃活動など近隣への活動は継続して欲しい。 ・コロナ禍のため、公開講座や職業訓練等の実施が減少していることは致し方ないが、Withコロナで開催可能に向けた検討をして欲しい。	・3年ぶりに公共職業訓練を実施出来た。	・公共職業訓練を実施出来たことは、良いことである。今後も継続的に実施できる体制を構築して欲しい。
(11) 国際交流	・コロナ禍により留学生の受け入れ 減少や、中国の青島大学への派遣留 学の機会喪失で、国際交流が難しい 現状である。	・コロナ禍により留学生の受け入れ は激減しているが、少数精鋭となり、 手厚くフォローが出来る状況であ る。 ・提携している中国・青島大学への派 遣留学の再開の目途は立たず引き続 き保留中であるが、今後はアフター コロナを見越して、中国以外の国で	・コロナ禍で留学生数が激減しているのは残念であるが、留学生一人ひとりに手厚いフォローが出来る良い機会である。 ・卒業した留学生5名全員が、進学や国内就職を実現できたことは、素晴らしい。

l l	の大学との協定を模索していく。	
	・学習の成果の国内外での評価体制	
	は、検討中であるが、留学生卒業生5	
:	名の進路は、1名が進学、4名が日本	
	国内での就職を実現出来た。	